

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和 7年 月 日（ ）第 時限
- 3 学級 ホームルーム（ ）名
- 4 使用教科書 明解歴史総合（帝国書院）
- 5 単元名 第一次世界大戦と日本の対応
- 6 単元（題材）設定の理由

<生徒観>

本ホームルームの生徒は授業態度も良好で、課題や考査もしっかり準備をして取り組んでいる。しかしながら、資料をもとに考えたり、思考過程について根拠をもとに示したりする記述式の問題については無回答の答案も見られ、思考をもとに知識の構成を図る能力には課題がある。問題意識を持って多面的に考察する、自分の意見をまとめて表現するという能力を育成したい。

<教材観>

第一次世界大戦の展開や、大戦終結後の国際秩序形成と各国の動向を取り上げることで、第一次世界大戦が国際社会に与えた影響について理解を深める。開戦時における各国の受け止め方が国や地域によって異なることを気付かせ、多面的・多角的な考察を促す。第一次世界大戦に日本が参戦した際、俘虜（捕虜）として徳島県に連れてこられたドイツ兵との交流について学習する中で、自分たちの身近な地域でも、歴史の教科書に掲載されているような歴史事象と関わりのある出来事が起こっていたことを気付かせたい。

<指導観>

第一次世界大戦後の国際秩序の変化について、課題の主體的な追究を促す。歴史学習は、「遠い昔」の「自分たちとは関わりが無い出来事」を学んでいるわけではなく、「徳島県にも現在までつながる影響があった」ということ、今の自分たちの生活につながっているということに気付き、後日に本校で行われるドイツシェーラベルグ職業学校との交流に際して、徳島県とドイツ連邦共和国の間には、板東俘虜収容所におけるドイツ兵との交流の歴史があることを理解することで、多文化共生社会の実現に寄与できる生徒の育成をはかる。

7 単元（題材）の目標

- (1) 第一次世界大戦の展開とその後の国際秩序の形成をもとに、総力戦の特質と国際協調体制について理解する。
- (2) 第一次世界大戦の特徴を踏まえ、日本と他国・他地域を比較して、第一次世界大戦がその後の国際社会にどのような影響を与えたか多面的・多角的に考察し、表現する。
- (3) 国際秩序の変化について、自分ごととして歴史を捉えて課題を主體的に追究する態度を養う。

単元の基軸となる問い

第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。

8 単元（題材）の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主體的に学習に取り組む態度（態）
第一次世界大戦の展開とその後の国際秩序の形成をもとに、総力戦の特質について理解している。	第一次世界大戦の特徴を踏まえ、日本と他国・他地域を比較しながら、第一次世界大戦がその後の国際社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦後の国際秩序の変化について、課題を主體的に追究する態度を養う。ドイツと徳島の歴史的背景を踏まえて前向きにドイツとの交流事業に向かおうとしている。

9 指導と評価の計画 単元名 第一次世界大戦と日本の対応 全4時間

- 第1時 ドイツの挑戦とバルカン半島・・・【知○ 思●】
- 第2時 総力戦となった第一次世界大戦・・・【知○ 思○】
- 第3時 板東俘虜収容所におけるドイツ兵・・・【思○ 態●】（本時）
- 第4時 ロシア革命と大戦の終結・・・【知○ 思●】

単元の指導計画（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時程	学習活動	評価の観点		評価規準等
		知	思	
第1時	【単元の基軸となる問い】第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。			
	【本時の問い】ドイツとロシアの対外政策の変更は、どのような対立を生んだのだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> ドイツとロシアの対外政策の変更についてワークシートにまとめる。 資料から読み取った情報を用いて、ドイツの政策がヨーロッパ諸国の対立や同盟に与えた影響について文章にまとめる。 	○	●	<p>(評価資料) ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドイツとロシアの対外政策の変更によって、バルカン半島で国際的な利害が対立していったことを理解している。(知) ●ドイツの政策がヨーロッパ諸国の対立や同盟に与えた影響について考察、表現している。(思)
第2時	【本時の問い】世界の国々とその国民は、どのようにして第一次世界大戦に関わっていったのだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦が総力戦化した構造についてワークシートにまとめる。 資料から読み取った情報を用いて、第一次世界大戦の特徴と戦争の被害が拡大した要因について文章にまとめる。 	○	○	<p>(評価資料) ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦が総力戦化した構造を理解している。(知) ○第一次世界大戦の特徴と戦争の被害が拡大した要因について考察、表現している。(思)
第3時 ★本時	【本時の問い】捕虜として徳島に連れてこられたドイツ兵はどのような生活をしていったのだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> なぜドイツ兵が徳島に連れてこられたのかについて知り、俘虜収容所ではどのような扱いを受けていたのか、その理由を考察し、文章にまとめる。 本校で行われるドイツシェーラベルグ職業学校との交流に際して、徳島県とドイツ連邦共和国の間には、板東俘虜収容所におけるドイツ兵との交流の歴史があることを理解する。 	○	●	<p>(評価資料) ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なぜドイツ兵が徳島に連れてこられたのかについて知り、俘虜収容所ではどのような扱いを受けていたのか、その理由を考察する。(思) ●ドイツ兵と板東の人々との交流について、主体的に考察し、交流活動に臨めるようにする。次時以降の学習へのつながりを見いだそうとしている。(態)
第4時	【本時の問い】どのようにして、ロシアで社会主義政権が誕生していったのだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> ロシアで革命が勃発した背景や経緯についてワークシートにまとめる。 ロシア革命の影響で「終わったもの」と「始まったもの」について文章にまとめる。 	○	●	<p>(評価資料) ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロシアで革命が勃発した背景や経緯を理解している。(知) ●ロシア革命の影響で「終わったもの」と「始まったもの」について考察し、表現している。(思)

10 本時の指導目標

なぜドイツ兵が徳島に連れてこられたのかについて知り、俘虜収容所ではどのような扱いを受けていたのか、その理由を多面的・多角的に考察し、表現する。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
導入 10分	<p>【単元の基軸となる問い】第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。</p>			
	<p>【本時の問い】捕虜として徳島に連れてこられたドイツ兵はどのような生活をしていただろうか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの内容を振り返り、本時は徳島に連行されたドイツ兵俘虜について学ぶことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いを示し、当時の俘虜（捕虜）の生活についてどのようなものだったか具体的に列挙させ、考えさせる。 		
展開① 10分	<ul style="list-style-type: none"> 事前に実施したClassi アンケート結果を示し、徳島とドイツとの交流について、知っていることを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が抱いている「ドイツ」「俘虜」のイメージと、「ドイツ館」・「第九」などのアンケート結果を引き出すことで、「板東俘虜収容所」についての学習意欲を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> Classi アンケートでドイツのイメージについて考察し、想起した答えを表現できている。【思考】 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート Classi 回答内容
展開② 20分	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、板東俘虜収容所が設置された時代背景を知る。 板東俘虜収容所が松江所長の人道的な運営方針の下で、俘虜達が所内で自主的な生活を送っただけでなく、地元住民とも活発な交流を行ったことに気付く。 当時の地元の人々と俘虜との交流に加えて、その後の長年のドイツ兵慰霊碑の清掃活動が日独交流のきっかけとなったことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦と日本との関わりについて学び、ドイツ兵俘虜が日本に送られた経緯について理解させる。 所内での自主的な活動、特に文化・スポーツ面の活動について図版資料等を用い、詳しく理解させる。 日独交流がどのようにして始まり、現在も絶えることなく続いていることについて、その理由を考えさせる。 		

まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 5班に分かれて、各人の考察結果について班ごとにまとめ、発表してホームルーム全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標や後日に行われるドイツとの交流事業に対する生徒の内面的変化等を意識するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 俘虜収容所におけるドイツ兵がなぜ人道的に扱われたのか、自分なりの考えをまとめ、表現できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート
------------	---	---	---	--

12 評価の目安と目標実現のための手立て

【思考・判断・表現】

A	十分満足できる	板東俘虜収容所におけるドイツ兵の生活について知ること、第一次世界大戦がその後の徳島県とドイツに与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現できている。
B	おおむね満足できる	板東俘虜収容所におけるドイツ兵の生活について知り、第一次世界大戦がその後の徳島県とドイツに与えた影響について考察できている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	タブレット端末を活用し、他者の意見に触れる機会をつくとともに机間指導を行い、生徒の記述状況を確認して適切な助言を行う。